

広丘




 広丘公民館の最新情報は
 Facebookページをご覧ください。
<https://www.facebook.com/hirookakouminkan>


セイコーエプソンとの共同企画による
 「夏休み子ども広場」(8月3日開催)

松風



幸せになれるニュースを

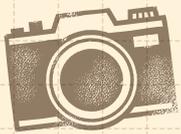
マスコミのニュースでは決まって事件・事故、犯罪などが必ずトップニュースで伝えられる。どうしてなのだろうと若い頃から思っていた。

ロシアによるウクライナへの侵攻、北朝鮮のミサイル打ち上げ実験。日本海を挟んで隣接する国々だがそう度々触れなければいけないのか。

最寄りの災害や事件には速やかな報道が求められるが、世の中を朝から暗くしがちなニュースを先にとの姿勢には違和感を感じており、嫌だなと思いついたら夢を見た。

夢の国では毎週1日は幸せニュースをトップで報じなければならぬ法律を作った。植物学者を迎え、花を愛でる人を増やして住民の心にぬくもりが芽生えてきた。町中に笑顔の人々がいっぱいである。

テレビなどでよく耳にする気になる言葉にふれてみたい。まずは「めっちゃ」「めっちゃくちゃ」。めっちゃ美味しい、めっちゃくちゃ綺麗。これは、「とても」だと思おう。国の政策に付いて「異次元」「持続可能」などもある。「丁寧の説明も?」だらけ。幸せにできるニュースには、ピリッと刺さる得た日本語らしい表現と実行が求められると思う昨今である。
 (F・M)



広丘公民館 フォトニュース (上半期)

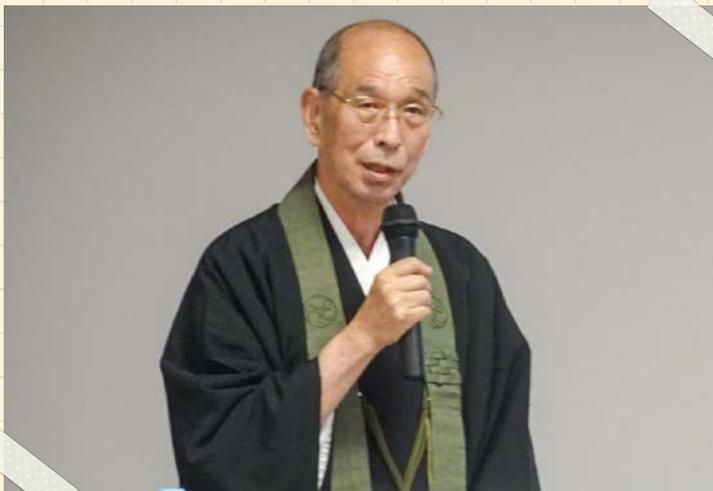
広丘公民館では、時代の変化に対応しながら、あらゆる世代が「集う・学ぶ・つながる」をテーマとし、さらに、「えんてらす」が目指す姿「子どもがつかなく、新しいふるさと」を基調にして、地域住民のニーズを捉えながら事業を展開してまいりました。

広丘公民館フォトニュースでは、上半期の公民館行事について、写真や感想短歌を交えて紹介します。感想短歌は塩尻短歌館の藤森指導員に選評していただきました。

6/22
開催

文芸サロン「出会えてよかった、ようこそ ようこそ」

郷福寺名誉住職、白馬義文さんから住職としての経験を振り返り、郷福寺が地域とともに歩み果たしてきたことをお話いただきました。後半は金子響さんのソプラノと、田岡将平さんのピアノによる美しい調べを聴きました。



選評

人は、人同士心を通わせることで生きています。そのための言葉を選び出す作業の大切さを、この一首から感じることができました。

感想短歌

人が好き 出会えた人と 心から
親しくなれる ことばを選ぶ

7/20
開催

文芸サロン

「ふるさとを歌う ～高野辰之も 室生犀星、石川啄木、島崎藤村も～」

おなじみ日本文学研究家の堀井正子さんから、「ふるさと」を歌うをテーマに藤村の「椰子の実」や辰之の「故郷」の詩をみんなで口ずさみながら、その歌詞の意味やまつわる話をお聞きしました。



感想短歌

知っている それでもとりの さえずりを
すーっとははと きいていた

選評

よく知っている鳥のさえずりでも、母と聞く声は胸を打ちます。お母様のそばにいたいという思い、深い愛情を感じますね。

7/15
開催

広丘学びのカフェ

「広丘で見られる昆虫たち」

講師：野満美憲さん



感想短歌

巣作りに 励むアシナガ チラ見して
どうしたものか 巣立ちを待つか

選評

思わず叩き落したくなりますが、蜂たちも頑張っていると知ると、愛着がわきますね。「どうしたものか」に作者の優しさを感じます。

7/28 モデルロケット教室

開催

講師：信州大学工学部中山昇さん、
工学部大学院の皆さん



感想短歌

びっくりだ モデルロケット とんだんだ
とんだらすぐに はねがひらいた

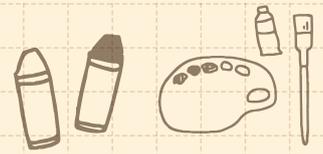
選評

今まさに飛ばしている場面を表していますね。ただ飛ぶだけでなく、直後に開く翼。その時の作者の興奮がここに刻まれています。

7/26

開催

サマースクール公民館



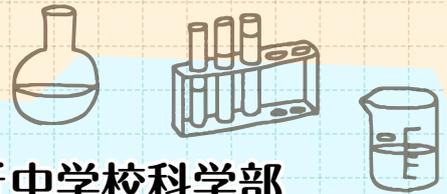
中央公民館主催のサマースクール公民館。9つの講座のうちひとコマを広丘公民館が担当。ウクライナに絵を贈ろうで講師をお願いした和田春奈さんの指導で子どもたちが絵を描きました。



8/4
開催

丘中学校科学部 サイエンスラボ

講師：丘中学校科学部の皆さん



感想短歌

か学の色で アルカリせいも さんせいも
色でわかって か学はすごい

選評

見えないものが見えることの不思議さがよく伝わってきます。感激した時の言葉を一つ一つ置くことで、心の躍動が表されています。

夏休み子ども広場

8/3
開催

紙の森のおまつり

セイコーエプソンの若手職員が企画し、公民館との共催で行いました。紙を使い森のイメージに装飾した会場で、魚釣りやくじ引きなどを親子で楽しみながら過ごしていただきました。



8/15
開催

広丘平和学習会

戦争遺児の講話は5ページ参照。

感想短歌

たった一度の 人生捧げて さらば友よ
さらば妻と子 異国の地にて

選評

命を落としてでも国を守ろうとした時代があったこと。その時のその人を想像することで、平和への祈りが深く伝わってきます。



9/14
開催

文芸サロン 「塀の中の中学生とともに」

講演では、山田富康さんから、刑務所の中にある中学校、松本市の旭町中学校桐分校に勤務された時の経験についてお聞きし、山田さん(リコーダー)、矢野修さん(ギター)のデュオ演奏や、ねっこぼっこの実演を楽しみました。



9/13
~10/25
開催

スマートフォン活用講座

スマートフォン初心者の方々に集まっていただき、講師の振興公社KADOの支援員の皆さんから、インターネットの利用やLINEの使い方などを学びました。



広丘公民館4分館合同の取り組み

4分館合同ロボット・ワークショップ

7月22日開催

長野高専の協力で、原新田・堅石・郷原・野村4分館合同ロボット・ワークショップを開催しました。今回は吉田公民館も共催に加わり総勢37組の親子が「ユカイナぼうけんクラフトキット」をベースにモーターで動くロボット作りを楽しんでいました。

なお、学生ロボコン2023長野県大会(予選会)には広丘小学校5年生の大槻光晴さん、吉田小学校2年生の岡本圭史さん、吉田小学校5年生の古田渉留さんが出場し、このうち古田さんは11月に行われる全国大会に長野県代表として出場します。



4分館合同人権学習会

8月20日開催

仏の教えと死後の世界。法話をYouTubeでも発信している山梨県北杜市の古刹見法寺の小林正尚住職を講師にお迎えし塩尻短歌館を会場に4分館合同の人権法話会が開催されました。

人と接し会話する大切さや「平等」と「公平」の差異等、普段気づかない様な貴重なお話を聴講することができました。



「広丘平和学習会」戦争遺児の講話(要旨)

戦後78年の終戦記念日に、広丘平和学習会が開催されました。
三村公民館長との対談形式で、戦争遺児の方お二人からお話をお聞きしました。

1. お父様が出征され戦死されるまでの様子は

○串田さん

父が戦死した経緯については、Sさんという戦友からの手紙があり詳しく書いてあったので紹介します。

昭和19年8月21日、広島港から台湾経由でマニラに向う船に乗船しました。父の最後の手紙には9月7日に台湾に到着。その時は60名ほどの兵隊がいたようです。いよいよマニラに到着するときにアメリカの魚雷を3発受けました。乗船した船は6千トン級の大型船だったが、10分くらいで沈没してしまいました。ここで戦死、というところだったが、幸いにも収容船に収容されマニラ北部に上陸しました。その後部隊はレイテ島の補充員として、父を含め10数人は乗船せず陸路で移動。乗船したならば米軍潜水艦の攻撃を受けていたはずでした。ここでも九死に一生を得て命をつなぎました。残った仲間は一箇中隊を編成しキャンガンという町に向かいました。その後米軍の攻撃が激しくなってきた、当時は(撤退ではなく)転進を余儀なくされました。昼間は攻撃が激しいため、移動は夜行いました。移動5日後米軍の攻撃があり、そこで部隊の大半が戦死してしまいました。その中に父が入っていました。手紙をくれた戦友によると、その時はまだ生きていたそうで、問いかけたら「戦死は覚悟の上だ。心配するな！」「志願をしてここに来た！」と言って担架に載せられ、野戦病院にむかう途中で父は目を閉じたそうです。その後部隊は厳しい状況で米軍に保護された時は7人しか残っていなかったそうです。手紙をくれたSさんは12月に帰国されました。ハガキで父の戦死の報が届きました。ハガキを読み戦争の厳しさを感じ、胸が熱くなる思いでした。改めて、父に届いたSさんの手紙を読んでみて、改めて戦争は悲惨なものだと感じました。

○百瀬さん

私の父も、串田さんと同じルソン島で戦死しました。しかし、死亡届には、父の名前が違い(名前の文字)が違っていました。それで「父の死は本当のことでは

ない。違う人なのでは。」母は言っていました。

本人からルソン島に上陸したという手紙が2回来ました。「正子と同じくらいの子ども(現地)がいてかわいがっている、家の畑の様子を心配している。」という手紙の内容でした。亡くなった知らせは、マラリアで死んだこと、米軍の砲撃を受けたこと、が書いてありました。本当に亡くなったのか、何十年信じていませんでした。私も父親も一人っ子、どうしても信じがたかったです。いつか帰ってくると思っていました。横井さんなど帰ってきた人の話を聞くと、父もいつか帰ってきてくれると思っていました。と、そんなことを母親は話していました。

2. 死亡告知書が届いた後、遺骨がどのような状態で届いたのか

○串田さん

遺骨は戻っていません。遺品は白井軍曹という方が持参されました。その後、県知事からの死亡報告書は昭和22年11月の日付で知りました。

○百瀬さん

母には、白いものに包まれたお骨を、どこかお迎えに行き、家に来た、という記憶があったそうです。先に戦死した方のご遺族からの話だと、その中に石ころや木片が入っていたようなことがあったと聞いています。家に届いた遺骨は開けませんでした。骨壺だったか、白いものでしたが、それはとても軽いものでした。

3. 遺児として、戦争を語り継ぐ(伝えていく)ことについてはどう考えるか

○串田さん

戦争を語り継ぐことは難しい課題です。広丘遺族会があり私も会員です。そこが主体的に動けばいいのですが、高齢化が進み厳しい状況です。

実は、今日私が話したことは、子どもにも家族にも全く話していません。今日ここで話しをさせていただき、これを伝えていくことは必要だと思いますが、どうしたら良いかは見当もつかないです。

○百瀬さん

(子どもや家族に対し)子どもには、小さい時から東京に遊びに行く時、まず靖国神社に寄り、それから自分たちの好きなところで遊ぶようにさせていました。また家の座敷には父の写真飾ってあります。子どもに聞いたら、小さい時から写真があるから、これがおじいちゃんだと分かっていたようです。だから改めて、「これが戦争に行ったおじいちゃんだよ」ということを私から話することはしませんでした。

4. 最後に

広丘公民館としては、平和学習会を通してこれからも戦争を語り継ぐ取組みを続けていきます。



串田 文一さん(吉田一區)

文一さんは昭和19年2月生まれ。父文吉さんは昭和20年6月12日(10日)、フィリピンのルソン島で戦死された。



百瀬 正子さん(堅石)

正子さんは昭和19年4月生まれ。父篤男さんは昭和19年7月に出征、ルソン島で昭和20年4月に戦死された。

ひだまりハーモニー



私たち「ひだまりハーモニー」は27年前、広丘小学校奨善塾（学校開放講座）「歌声あわせて」の合唱講座で出会った仲間が発足しました。当初のメンバーは少なくなりましたが、友達が友達を呼び、現在に至っています。

地域の文化祭や音楽祭に参加させていただきながら、合同コンサートや単独コンサートを開催してきました。ここ数年はコロナ禍の影響で活動休止していましたが、練習を再開できた時は歌える喜びを痛感しました。

私たちは「ひだまり」のように、優しく、温かいハーモニーを目指してきました。人生百年の時代。これからも健康で、笑顔いっば

いに歌い続けていきたいと思えます。

折橋章子先生は、技術面に加えて曲の解釈、詩の理解まで深くご指導くださり、山田京子先生は、優しいピアノの音色で私たちを包んでくださいます。団員募集中です。私たちと一緒に歌いましょう！お待ちしております。



体協だより

広丘地区体育協会キャッチフレーズ

スポーツを通じ、明るく笑顔で、健康づくりと仲間づくり

広丘地区体育協会 会長 小野 宏

新型コロナウイルス感染予防対策を継続しつつ、上期は概ね事業計画通りの活動を展開することができました。参加された皆さん、企画・運営関係者の皆さんのご協力とご尽力に御礼申し上げます。下期も引き続き「明るく笑顔で、健康づくりと仲間づくり！」です。

中学校部活動の地域移行に関しましては、市の地域移行協議会が立ち上がり、具体的なガイドラインを策定中とのこと。引き続き注視して参ります。

令和5年度 広丘地区体育協会事業計画(下期分)

No.	大会名等	実施予定日	曜日	開会時間	会場
1	広丘地区グラウンドゴルフ大会	10月11日	水	9:00	野村グラウンド
2	広丘・高出・中学生秋季ソフトテニス大会	10月14日	日	8:30	中央スポーツ公園
3	ダンススポーツ交流会	11月12日	日	13:00	広丘小体育館
4	広丘支部対抗卓球大会	11月19日	日	9:00	広丘体育館
5	秋の広丘・高出地区ミニバレー大会	11月26日	日	8:00	広丘小体育館
6	広丘・高出地区ニュースポーツ交流会	12月3日	日	8:00	広陵中体育館
7	広丘地区冬季ソフトバレーボール交流会	12月3日	日	9:00	広丘小体育館
8	ダンススポーツ教室	12月(4回)	日	19:00	広丘公民館
9	広丘・吉田・高出地区少年少女柔道大会	12月23日	土	13:00	誠心館道場
10	ふれあいスポーツ教室	5月～11月		19:00	広丘小・丘中・広陵中体育館
11	中級ソフトテニス教室	通年	火	19:30	広陵中体育館
12	初級ソフトテニス教室・親子テニス教室	通年	日(第1)	8:30	北部公園テニスコート



広丘地区剣道錬成会 (8月27日)



ナイターソフトボールリーグ戦(8月29日)



広丘・吉田・高出地区少年野球大会(9月3日)

玄蕃之丞伝説

玄蕃之丞(げんぱのじょう)、一度は耳にしたことがあるかと思えます。塩尻市の夏のイベント『げんぱまつり』は、昔、桔梗ヶ原にいたという狐の玄蕃之丞にちなんだ市民祭で、大門商店街に多くの人が集まり、塩尻の夏の風物詩として、広く市民に愛され受け継がれています。

この玄蕃之丞「人をダメしたりイタズラをして住民を大変困らせた」といった物語で伝わっており、この玄蕃之丞を親分とした物語は松本平一帯に及んでいます。

ところで、この玄蕃之丞、果たして本当に「狐」だったのでしょうか？

玄蕃の丞を親分としたイタズラ狐が活動していたのは鎌倉時代までさかのぼる

源頼朝によつて鎌倉に幕府が開かれ、はじめて武士による政治が始まりましたが、幕府を開いた源氏は3代で滅びてしまい、そのあと、幕府の執権職にあつた北条氏が実際の権力を思い通りにするようになりました(これを執権政治と呼びます)。そのころ、塩尻市の桔梗ヶ原に玄蕃之丞、松本市寿の赤木山に真左衛門、塩尻市宗賀平出に左源道という

地方に勢力を持った地頭が住んでおりました。

伝説では狐集団の棟梁とされている玄蕃の丞は、どうして狐になつてしまったのか？

実は、鎌倉時代の隠密(今で言えばスパイ、忍者)は当時「狐」と呼ばれていて、玄蕃之丞は松本平一帯を領有する(自分のものとして)隠密団の総元締(親分)で、この桔梗ヶ原を中心に隠密団(狐集団)を引き連れ、遠くは安曇野までこの狐伝説は及んでいます。

この玄蕃の丞、どこに住んでいたのでしょうか？

私たちの住む広丘の小字(小さな集落や農地を特定するために使われてきたもの)の中に「池之坊」という小字があります(地図 )。郷原区にある郷福寺は天文年間(1532年~1555年)、桔梗山白馬院として、桔梗ヶ原の中央、字池之坊に建てられており、ここに玄蕃之丞の居館があつたようで、近くには玄蕃稲荷もあり、玄蕃之丞が祭祀した神社と考えられます。

塩尻市誌付図塩尻市地名地図



松本歯科大構内の諏訪社・稲荷社の場所、周辺に稲荷の名の付く地名が目立つ

玄蕃之丞の表記について：資料によっては玄蕃允と表記している資料もありますが、ここでは一般的な「玄蕃之丞」としました。



池之坊と呼ばれた地、玄蕃之丞の館があつたと思われる場所。近くには湧水による池がある。(左の写真)



「塩尻の伝説と民話」より
西沢 和善

ふるさと探訪

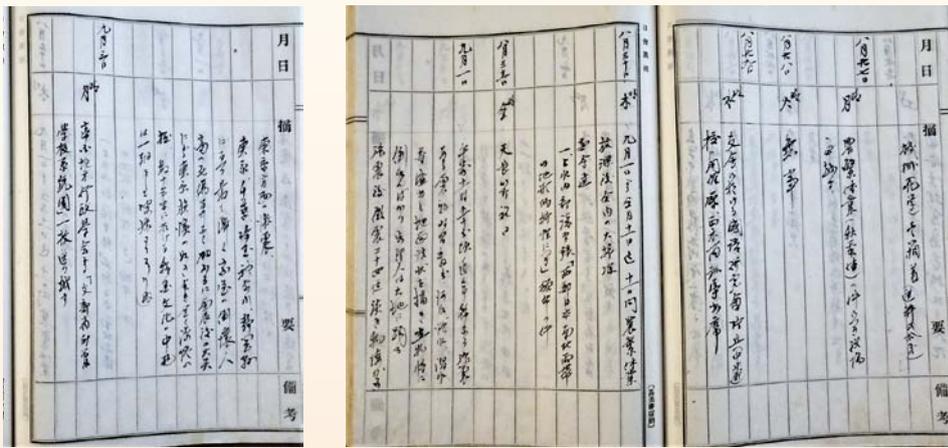
百年前の関東大震災(一)

今年は大正12年9月1日におきた関東大震災から百年の節目の年にあたり、関心が高まりました。

9月1日の信濃毎日新聞には関東大震災のことが「相模湾を震源に1923年9月1日午前11時58分に発生。マグニチュードは7・9とされ、M7強の余震も複数回起きた。建物の倒壊や火災、土砂災害や津波も広範囲で発生。特に火災は昼食の用意のために多くの家庭で火を使っていたことや台風の影響による強風で多発、大規模に延焼し、火災による死者は約9万2000人上った。また情報報が途絶、混乱する中で流言が広まり、朝鮮人など外国人に対する差別や虐殺も起こった。長野県内の地震被害は家屋の全壊が45棟、半壊が176棟。県内には被災地から多くの人が避難してきて、各地に救護所が設けられ、炊き出しが行われたり、義援金や日用品が届けられた。」とわかりやすく記述されていました。長野郷土史研究会が関東大震災を信州人の視点でまとめた冊子『100年前の関東大震災と長野県』を発行したことも紹介されました。紹介文見出しには「情報不足やデマ拡散「現代にも通じる課題」とあり、「大震災は関東地方の話という印象があるかもしれないが県内とも関わりが深い。100年を機に長野県の視点でまとめる必要がある」との談話も載っ

ていました。

今号からの「ふるさと探訪」は当時の新聞記事や学校日誌、手記などから関東大震災に見舞われた時の信州の状況を明らかにしたいと思えます。写真は廣丘尋常高等小学校の学校日誌です。9月1日関東大震災のことが12行にわたって書かれています。



午前十一時五十分頃近年稀なる強震ある。振動時間数分河水、池水、濁水等溢出し地面波状を描き立物將に倒れんばかり歩行人は大地に踊る強震後微震二十回位續き物凄かりき東京方面の激震、東京、千葉、埼玉、神奈川、静岡縣に互り最も激く家屋の倒壊人畜の死傷算なく加ふるに震後の大火による東京横濱の如き全く凄惨の程、数十年間に於ける我国文化の中樞は一朝にして破壊さり了りぬ

5行までは広丘の地震の様子が書かれています。「近年稀なる強震」とある地震は予期せず起きています。「振動時間数分間」とあり、広丘でも長い時間強いゆれが続いたことがわかります。「地面波状を描き立物將に倒れんばかり歩行人は大地に踊る」とその時の状況が表現されています。強震後も微震が二十回位続き「物凄かりき」とも書かれています。6行目からは「東京方面の激震」の様子が書かれています。震災の号外が出たのは翌日でしたので、この箇所は後に書かれたものです。「震後の大火による東京横浜の如き全く凄惨の程、数十年間に於ける我国文化の中樞は一朝にして破壊されりぬ」と凄惨の状況が表現されています。

小学校は9月1日から11日までの11日間農繁休業(秋蚕休)となっていて、児童は学校にはいませんでした。

(太田秀保)

編集後記

今夏の世界的な猛暑を受けて使われ始めた「地球沸騰化」という言葉の背景には、2023年7月に「地球温暖化」という言葉では表現しきれないほどの猛暑が世界各地で発生したことにより、科学的な公式データの発表を受け、国連のアントニオ・グテーレス事務総長が記者会見において「地球沸騰化の時代が到来した」と語ったことで瞬く間に世界中に広まり共感や驚きの声が上がったそうです。日本においても、今夏(6〜8月)の全国の平均気温は統計開始(1898年)以来最高を記録し平年より1.76度高く、最も暑い夏を体感いたしました。

「公民館報 広丘」が皆様のお手許に届く頃には、厳しい暑さを忘れて「食欲の秋」「読書の秋」に移り替わっていることを願っております。コロナ感染状況に注視しつつ、皆様のご理解とご参画によって公民館活動が更に前進して行きますよう、引き続きご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

(編集委員長 百瀬 宏)

世帯数と人口

(令和5年10月1日現在)

区	世帯数	男	女	計
原新田	1,889	2,026	1,962	3,988
堅石	1,043	1,277	1,303	2,580
郷原	702	751	731	1,482
野村	2,794	2,928	2,645	5,573
計	6,428	6,982	6,641	13,623
塩尻市	28,859	32,906	32,804	65,710

令和5年10月25日 発行

編集・発行 : 広丘公民館

印刷 : 日本ハナコ印刷

住所 : 〒399-0702 長野県塩尻市広丘野村2089-1 電話 : 0263-52-0157 FAX : 0263-53-3769

E-mail hirookaka@city.shiojiri.lg.jp